

No.1611

第1612 回例会

2014年2月7日(金) 12:30 ~ 13:30

点鐘

君が代斉唱

ロータリーソング “奉仕の理想”

会食 (中華・米山ランチ)

会長会務

* ビジター・ゲスト紹介。

* 本日は職業奉仕賞表彰を行ないます。

* 木の話 (27)。

ヒノキに比べてさわらか
(さっぱり) であること
から命名されたサワラに
ついて、お話しします。



* 2月はロータリー理解推進月間です。

幹事報告

* ガバナー事務所より、2014年度米山奨学生
世話クラブのお願いとカウンセラー選出のお
願い。

* 例会変更のお知らせ。

鳥取中央 2月24日(月) 夜間例会
ビジターの受付は定時定例会場にて

* ロータリーの友2月号、ガバナー月信 No.8
を配布しています。

* 例会終了後、定例理事会を開催いたします。

委員会報告

* 親睦活動・出席委員会

出席率・スマイル報告

* 雑誌委員会

* その他

職業奉仕賞表彰

いなば幸朋苑 主任 森山大介さん

先週(第1611 回例会)の記録

2014年1月31日(金) 12:30 ~ 13:30

会長会務

* 木の話 (26) 明日はヒノキになろうと子供達
が努力目標の木として、一躍有名になりました
ヒノキ科のアスナロについてお話しします。

アスナロは青森ではヒバと呼び、石川県能登
ではアテと呼ばれます。常緑高木で樹高30m、
胸高直径60cmで、樹形が壮年期までは円錐
形ですが、老年期は釣鐘形になるのが特徴です。

葉の形はヒノキに似た鱗状葉ですが、その枝
や葉はずっと大きく、小枝に十字対生して密着
し豪壮です。花は5月に咲き、秋には広卵形
ないし球形で12-16mmの球果が枝先に付
き、種子は長さ4mmでまわりに翼がついて飛
び散ります。

前にも話しましたように青森のヒバ天然林は
日本の3大美林と讃えられてきました。能登で
は農家の裏に家宝として立つアテの大木を拝見
し、凄く感銘を受けた経験があります。

アスナロの心材は淡黄色で美しく、緻密です
が軽く、耐久性がきわめて高く素晴らしい建築
材です。また、有名な石川県の輪島塗の漆器木
地はこのアテ材が用いられています。

「余談」岸本先生と輪島に学術調査で旅をし
たとき、輪島塗がほしくなり、岸本先生にお金
を借りて購入した事を思い出しました。今でも
我が家の宝です。

幹事報告

* 米山記念奨学会より、昨年1年間に特別寄付を
していただいた会員の皆様に、確定申告用領収
証が参っております。該当の方にお配りしてい
ます。

* 抜粋のつづりを配布しています。

出席率

1月31日 会員 53名 欠席 7名 86.79%
1月17日 メーキャップ 3名 84.62%

メーキャップ会員

1月27日 油谷博文会員 鳥取中央 RC へ
1月28日 西尾正博会員 日本ロータリー
Eクラブ 2650 へ

スマイル

- * 西尾 茂会員 / 矢谷英志様、会員卓話楽しみにいたしています。
- * 竹内 隆会員 / 昨日の新聞に、小・中学校の時の同窓会写真と記事が載っていました。日頃 10歳若くさばを読んでいましたが、バレテしまいました。ショックです。
- * 矢谷英志会員 / 本日は卓話で皆様のお耳汚しをさせていただきます。
- * 米本哲人会員 / 矢谷さんの本日の卓話は演題が魅惑的で楽しみです。
- * 岡田信俊会員 / 矢谷さん、本日は卓話をよろしくお願い致します。
- * 浜本真一会員 / 私の夢であった日本三大銘石、佐治川石、水石の館をこの度鳥取自動車道西1C近くに、2月8日オープンする運びとなりました。是非1度足を運んでやって下さい。チラシを配布しております。
- * 坂本 直会員 / 写真、ありがとうございます。
- * 幡 碩之会員 / ①誕生日71回目。②皆勤賞22回目です。ありがとうございます。
- * 西尾正博会員 / ①誕生日。②入会して20年満64歳にて皆勤賞第1回。意志を強く持ったら私でも出来ました。ありがとうございます。
- * 早退2名 合計22,000円

山登り同好会 発足 山村保雄会員

会長の承認を得て発足しました。

リーダー森本和夫会員、幹事山村保雄会員。
軽い所からハードな所まで、皆さんとの親睦を深めていきたいと考えておりますので、是非とも入会をよろしく願います。

卓話「夏子の酒」

会員 矢谷英志さん

2週間前の例会で、倭島会員からもらった写真を見て「夏子の酒」というテーマが頭に浮かんだ。鳥取市立川の中川酒造の蔵の中で24年前に撮影したその写真には、若かりし頃の青年中央会のメンバーが写っており、その中の一人が「強力」という鳥取の酒米の復活に力を注いだ中川盛雄とい

う人だった。

「夏子の酒」とは、尾瀬あきらによる漫画で、1988年から1991年にかけて漫画週刊誌に連載され、テレビドラマ化もされた。

これは造り酒屋を舞台とした社会派の物語で、酒米を題材に日本の米作り・農業問題を取り上げるとともに、それまで一般的に知名度が低かった、三増醸酒（アルコール添加酒）と純米酒をめぐる問題など日本酒業界の抱える構造的問題を世に知らしめた。

この「幻の酒米を復活させる」ストーリーは、「亀の尾」という酒米品種を酒造家が復活させた実例を参考にして組み立てられた。智頭町に有る諏訪酒造がモデルになったと思っておられる方も多いが、実際は作者が諏訪酒造で酒造りの知識を得たりストーリーを組み立てるために何度も訪問し、その縁で「夏子の酒」の原画のコピーが数多く展示されている。

実在した鳥取県工業試験場技師・故上原浩氏（鳥取ロータリークラブ元会員）をモデルにした人物「上田久」も登場し、夏子の酒の酒蔵の指導を行っている。その中で智頭町に有る諏訪酒造の鵬も紹介されている。そして夏子と杜氏・蔵人・酒米の栽培農家の人たちと、苦労の末に幻の吟醸純米酒を完成させる。

「夏子の酒」の時代背景として、日本酒の生産量がピークを過ぎ、段々と消費者が日本酒離れし、ウイスキーや焼酎を好むようになってきた蔵元のジレンマが有る。終戦後の酒米不足の中、政府主導で作られるようになった三増醸酒の普及による、消費者の日本酒の本当の美味しさの忘却。また地方の蔵元が安易な大手酒造メーカーへの桶売りに慣れてしまい、数多くの酒蔵が良い酒を作る努力を忘れてしまった。そんな時代だった。

しかし、「夏子の酒」の蔵のように近年多く酒蔵で昔ながらの手法による純米酒の生産が盛んになってきた。最初に紹介した鳥取の中川酒造も、この漫画のように苦労して手に入れた強力米の種子を契約農家と一種に育て上げ、全国に誇れる純米酒を完成させた。このような蔵元の努力のお陰で、日本酒自体の消費量は減少しているが、純米酒の消費量は全国的に徐々に増えてくるようになった。

次週例会予定

2014年2月14日（金）第1613回例会
卓話「マンガに描かれた鳥取砂丘」

鳥取市中央図書館館長 西尾 肇さん